

会 議 録

1 会議名

令和8年度第1回阿賀野市観光戦略プラン策定委員会（審査会、委員会）

2 開催日時

令和8年8月28日（金） 午前10時00分から午後00時00分まで

3 開催場所

阿賀野市役所4階 402会議室

4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員長：牧野商工観光課長
- ・委員：荒木風太、遠藤和人、遠藤健太、遠藤忠和、加茂豊和、栗山実、小林和也、高橋修、土井一心太、永松健太郎、渡辺計一
（14人中12人出席）
- ・外部有識者：大下茂（株式会社KITABA）
- ・事務局：田村係長、浅川主任、阿部主事（計3人）

5 議題（公開・非公開の別）

- （1）策定委員会の概要について（公開）
- （2）分析データの説明（公開）
- （3）観光への期待及び課題について（公開）

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

0人

8 発言の内容

（1）策定委員会の概要について

浅川主任： 本日の第一回にて阿賀野市の分析データの確認をしていただいたあと、皆様から観光への期待や課題についての意見交換をしたいと考えております。

10月上旬開催予定の第二回にて、皆さんからいただいた課題について

整理、また市の魅力について意見交換をしていただきます。

11 月中旬開催予定の第三回にて、将来像に対する施策の検討をしたいと考えております。

12 月下旬開催予定の第四回にて、その施策に対する目標値の検討などをしたいと考えております。

策定完了の前に一度、2～3 月にかけてパブリックコメントを実施し、市民の方から広く意見を募集したいと考えており、1 月下旬開催予定の第五回にて、パブリックコメントにかける前の最終内容の確認をしたいと考えております。

第六回については、パブリックコメントにて意見が出された場合に開催予定です。意見がなかった場合は書面での開催に代えさせていただきます。

以上が阿賀野市観光戦略プラン策定までのスケジュールとなっております。

策定委員会にてプランの策定後も、プランの期間中は評価検討委員会を開催し、プラン通りに進めているか、修正などがあるか、などについて、年に二回程度皆様にはお集まりいただき、評価をしていただきたいと思いますと考えております。

(2) 分析データの説明

阿部主事：(資料に沿って説明)

(3) 観光への期待及び課題について

委員長：グループワークとさせていただきますので、20 分間で付箋に期待、課題についてそれぞれご記入をお願いいたします。

委員長：(25 分後) 1 班から発表をお願いします。

委員長：ありがとうございました。続きまして 2 班の発表をお願いします。

永松委員：課題については「知名度の低さ」「観光客向けの施設、飲食店が少ない。

地元向けで入りづらい」「SNS 関係は魅力発信できていて、閲覧数は多いが実際に来ているのかどうか分からない、各媒体への露出の工夫必要」「魅力あるコンテンツは多いが活かしきれていない」「点と点がつながっていない」「体験型コンテンツが少ない」「周りの観光地への通過地点になっている。モデルコースをいっぱい作ったらどうか」「二次交通、自家用車が主流となっている」「インバウンドと県外誘客」「若者が少ない」が上がりました。期待は「二次交通に関してはよくなるのを期待」「日本から世界へ」「お客さんがたくさん来ることで収益性、収入アップ」「冬は温泉の宿泊からアクティビティにつなげる」「コンテンツの整理、良いものはあるのでどう活用するか」「阿賀野市のファンを多く作

ればよいのでは」「予算は限られているので、入湯税や宿泊税を活用」などが上がりました。

委員長：ありがとうございました。それでは二班も発表をお願いします。

土井委員：課題が多かったです。二次交通の弱さ、充実が大事では。設備投資や人材育成が必要。また、何度も来ている人が多いと思います。車で来ている人へのサービスを考えてもよいのでは。一班でも出ていましたが、ファンを大切にすべきです。

阿賀野市といえば瓢湖。現状はただ白鳥がいるだけになっています。観察舎でもカフェやお土産販売やっていますが、ガイドが必要。まちのことを知れる何かが必要で、できればガイドの会の方々と連携しながらやっていって、阿賀野市広域でもそういった動きに繋がってほしいのでは。

阿賀野市の客層は50代くらいの方が多い。まち歩きの方もそう。歴史や瓦ロード、コンテンツごとのターゲットも大事なのでは。阿賀野市がどういったまちなのか明確に発信できるとよい。

高橋委員：歴史がそれなりにあるはずだが、歴史があまり表に出ていないのは弱さになるのでは。あとはやはり二次交通が弱い。関東圏の車がない人はほぼ来ない。今出ているのはみんな思い付きで考えたものだから、これからどうするかよく考える必要がある。

土井委員：二次交通を改善しただけで来ることにはつながらないと思うので、二次交通のサービスを拡充させつつ、コンテンツの磨き上げをやっていかないといけないと思う。

委員長：では、大下先生より2つのグループの意見を聞いて総括をお願いします。

大下アドバイザー：今後の議論の参考になればとお話させていただきます。

例えば観光振興の計画を立てます。将来的には、観光入込客数を増やしたい、満足度を高めたいなど様々な価値判断があるかと思いますが、それを縦軸に置きます。現在の時間を縦軸に置きます。10年もしくは5年。観光であれば5年で立てるところが多いので、仮に5年として、それを計画期間といいます。様々なデータも今日示していただきました。現状と将来の姿にギャップがあります。これがいわゆる課題というものです。将来のイメージを持たれつつ、現状課題はこれだよね、将来どんなふうな地域にしたいよね、という期待があり、どういう手立てで解決するか、それを戦術や施策と呼びます。トータルで示したものを観光プランと呼びます。課題は裏返すとどういう手を打てばいいか、という話になって、今日の話がどう活かしていけばいいかとい

う話につながります。今のところは計画とは何かというお話をさせていただきましたが、二つ目として観光への期待という話をまとめたいと思います。お客さんが少ない、またはリピーターが多いのか、一泊なのか連泊なのか、一万円かけても二万円かけても来たいと思わせるコアな客層をどうやって開拓していけばいいのか、というのは地域に対しての経済を生む話になります。

観光は経済畑に置かれることが多いですが、単なる経済指標のツールではなく、京都や高山を見てわかるように文化的な側面ももちろんあります。しかし、まずは地域に潤いを、外から来た人から得たいよね、少しでも長くいてもらいたい、あるいは満足して帰ってもらって次は別の人を連れてきてほしい、経済的な面の期待が随所に出てきていました。あるいは、観光を通じて知名度を上げたい、誰でもいいわけではなく、好まざるお客さんを呼ぶのではなく、阿賀野市が好きな人、水原が好きな人、安田が好きな人、など。そういったものは「社会的貢献」になります。

あるいはガイドさんがいますが、外から来た人をもてなしたい、何か関わりたい、外から来た人に阿賀野で食べているおいしいものをぜひ食べてほしい、持ち帰ってほしい、というのは一つの社会貢献をした、という一面が、観光ではあります。

昨日視察をして、瓦をみて衝撃を受けました。外国の人もそうだと思います。アジア系の方は自国でも使っていると思いますが、欧米や地中海沿岸などは使っていないので、このような面で、文化への貢献などがあると思います。

全体をまとめると、入湯税を使いたいなど、地域全体として経営していく、という観点。観光への期待というのは、一番最初はちょっといいんですが、人々の関心を引くには「お金」、地域が潤いますよ、という話。その次は地域の方が外の人と関わりながら地域の魅力を伝えたい、という社会的貢献。酪農の発祥の地ってすごいなど文化的貢献。情報発信や集客、コンテンツが足りないのではなく資源をそのまま売ろうとしているからコンテンツになっていない。誰に対してという、ターゲットまで決まってから資源はコンテンツになる。そういった考えのもと、地域全体でラインナップをたくさん増やしていきましょう。

また、今回は出し惜しみをする、慣れてきたら次に行ってもら。観光でのテクニックは一度にすべてを見せない。わざと出し惜しみをするというやり方もあります。ちょっとずつわかるようにしていくこと

も大事。経済→社会的貢献→文化的貢献→地域全体の経営的な視点を育み、次のコンテンツに繋げていくという形で循環します。計画はどのようなふうに行くのか、まっすぐ行くのもあり、最初はゆっくり回りを見ながら行くのも、寄り道するのもあり。様々な手立てがあるので皆さんでこれから考えていく。トリガーという玉突きというものがあり、観光では大事。皆さんの期待する将来像に近づけるためには、どのような手立てがあるか次回話し合いたい。

委員長：以上をもちまして、第1回 阿賀野市観光戦略プラン策定委員会を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。

9 問い合わせ先

商工観光課観光係

TEL：0250-62-2510（内線 2343、2345）

E-mail：syokokanko@city.agano.niigata.jp